

超域表象論特講 I

選択 2単位

ル・ルー 清野 ブレンドン

1. 授業の概要(ねらい)

「日本人は勤勉でドイツ人に似通うところがある」という話をよく耳にするように、あたかも自明のように語られる「国民アイデンティティ」が昔から存在すると思われがちである。ところがそれは近代ヨーロッパで創り出されたものにすぎない。叙事詩が発見され、国語が定められ、歴史が編まれるという過程を経てのことである。特色ある風景、観光名所、民族衣装も誕生した。その過程は実は地域を超えてヨーロッパをはじめ各国で同じ時期に、同じパターンで進行した。

この授業ではそのような「超域」にわたるアイデンティティの表象を歴史的な視点から受講生とともに考える。

2. 授業の到達目標

- ①文章を的確に要約できる。
- ②先行研究を探し出し、整理・紹介ができる。
- ③「超域」的視野から自身の研究を見つめ直すことができる。

3. 成績評価の方法および基準

授業内発表50%、期末レポート50%

4. 教科書・参考文献

教科書

アンヌ＝マリ・ティエス／著 斎藤かぐみ／訳 『国民アイデンティティの創造 十八～十九世紀のヨーロッパ』 勁草書房

5. 準備学修の内容

毎週の予習は必須。発表者はもちろんのこと、参加者は毎回論文を精読してくること

6. その他履修上の注意事項

毎週出席し積極的に授業に参加すること。
自身の研究へのフィードバックを意識しながら授業に参加すること。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス:授業の狙い,シラバスの確認と共用,個人研究の紹介
- 【第2回】 論文要約発表1-諸国民のヨーロッパ①
- 【第3回】 論文要約発表2-諸国民のヨーロッパ②
- 【第4回】 論文要約発表3-祖先の特定①
- 【第5回】 論文要約発表4-祖先の特定②
- 【第6回】 個人研究発表1
- 【第7回】 論文要約発表5-国民一つに、言語一つ①
- 【第8回】 論文要約発表6-国民一つに、言語一つ②
- 【第9回】 論文要約発表7-国民文化への国際的な後援態勢①
- 【第10回】 論文要約発表8-国民文化への国際的な後援態勢②
- 【第11回】 個人研究発表2
- 【第12回】 論文要約発表9-一つの国家に、複数の民族①
- 【第13回】 論文要約発表10-一つの国家に、複数の民族②
- 【第14回】 個人研究発表3
- 【第15回】 前期のまとめ